

第4回 滋賀県社会教育委員会議 概要

[日 時] 令和4年2月9日(水)

14:00~16:30

[会 場] 県庁東館7階大会議室

(オンライン会議)

【出席委員（五十音順）】

板倉 正直委員 加藤 芳顕委員 金井 文宏委員 橘 円 委員 富永 美砂穂委員
永井 泉 委員 藤谷 忍 委員 藤村 祐子委員 宮本 麻里委員 吉田 尚子委員
(10名)

1 開 会

○議長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項

○令和4年度社会教育関係団体・機関等への補助金交付について

(2) 審議 テーマ

「これからの地域を支える人材育成・確保のための社会教育・生涯学習のあり方」

○提言(案)の内容について

○提言完成へ向けての作業、スケジュールについて

3 その他、諸連絡

4 閉 会

○課長挨拶

【別紙資料】

資料1: 令和4年度社会教育関係団体・機関等への補助金交付額一覧

資料2: 第3回社会教育委員会議の審議過程

資料3: 提言(案)「これからの地域を支える人材育成・確保のための社会教育・生涯学習のあり方について」

資料4-1: 人生100年時代の地域における学びと活躍推進事業

資料4-2: 学びから始まる地域づくりプロジェクト推進事業

資料5: 滋賀県社会教育委員会議のスケジュール

1 開 会

○議長挨拶

2 議 事

【議長】

それでは、議事に入らせていただきます。

報告事項について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

○令和4年度社会教育関係団体・機関等への補助金交付について（※資料1）

・県内社会教育関係団体・機関への補助金交付状況について説明

【議長】

ありがとうございました。ただいまの説明に対して何かございますでしょうか。

また、後程でも構いませんのでおっしゃってください。進んでよろしいですか。

それでは、議事の2つめ、提言「これからの地域を支える人材育成・確保のための社会教育・生涯学習のあり方」について、これまでの審議を踏まえ事務局よりご説明よろしく申し上げます。

【事務局】

○これまでの審議経過について説明（※資料2）

○提言（案）の内容について説明（※資料3）

【議長】

それでは説明いただいた前半の部分、お手元の8ページの論点の三番目までです。そこまで皆さんご意見がございましたら挙手を願います。

【永井委員】

学校現場では今、PTAの加入について議論になりつつあります。

本来、PTAは任意加入であるということで、このことを強く言われる保護者もあり、現在PTAの加入について、加入しますかどうしますかと希望をとられた結果、半分くらいになってしまったという学校があります。

甲賀市の方では、もっとPTA行事を減らせばいいのではないかと、負担がかからないようにすればいいのではないかとこのように考えましたが、今の説明を聞いていますと、やはり根本的になぜPTAがあって、保護者が学校や地域に関わっていくことは、すごく大事だからPTAという組織があるということ、そういうことをもう一度改めて意義を伝えていく必要があると思いました。

例えば、役員はあてませんからとか、行事は少なくなりますから、何とか入ってくださいということではなくて、なぜ今まで長く続けられたかということ伝えていかないといけないなというふうにも思いました。

もう一つお話しさせていただくと、子どもが地域の課題に当事者意識を持って関わっていくというお話がありました。学校現場ではとても大事なことだと思っています。本校では、中学生が座布団を作成し、お年寄りに届けるって

いうことをずっと続けています。

今年、こうやって三つの座布団を、一人住まいの高齢の方のお宅に届けるという取組をしました。このことで、子どもたちが今まであまり知らなかった地域に 1 人で住んでおられる高齢の方が、これだけおられるということに気が付き、そこから何か子どもたちが発信できればいいと思っています。

また、今年度、少し進んだことは、地域の更生保護女性会という団体があり、その方々に編み物ボランティアとして学校に来ていただいて、地域の方や保護者会の皆さんと生徒たちが、一緒になって編み物を作り取り組んでくださいました。こういうのは地域との繋がりができて、よかったと思っています。

少しずつ学校の方からもこういうことを発信していく必要があるし、ようやく甲賀市の方でもコミュニティ・スクールが今まで2校しかなかったのですが、来年は3校増えて少しずつ広がりを見せている状況です。

【富永委員】

本当にこの社会教育委員として、高校の取組も見せていただきすごいと思う一方で、学校でここまで大人がお膳立てをしないと子どもにスイッチが入らないのかということも思ったりしました。

自分も学校で地域コーディネーターとして活動させてもらう中、子どもが主体的にという言葉が学校では本当によく話されますが、主体的って本当にどういうことなのだろうっていうことをつくづく考えます。

私は麴町中学校の元校長先生で、現横浜創英中学・高等学校長の工藤勇一先生が大好きで、いろいろ本も読ませていただいたり、フォローしたりしているのですが、最近、工藤先生がSNSに投稿された言葉の中で、すごく自分に響いた言葉の一部を少し紹介させていただきます。

それは、「子どもが自己肯定感を持てるようになるには、どれだけ褒められたかじゃなく、どれだけ自己決定したかが大事です。自己決定を積み重ねる中でこそ自分で自分を認めることができる人に成長するんだと思います。」という言葉です。

その通りだなと思って、褒めるとか、こちらがお膳立てしてできたことができて、よかったねとか評価されるというよりも、子どもが自分で自己決定するというこの言葉が、自分も子育てしてきてすごく思うことです。強く心に響いたので社会教育委員として、いろんな取組を見せていただく中で、思うところと重なったので発言させていただきました。

【議長】

富永さんの今の自己決定については、僕もすごく共感するところがあるのでまた時間があつたら、僕も言いたいなと思います。

【橋委員】

まず、今回の提言(案)の審議の論点はこれまでの皆さんの発言を取りまとめたので、大変わかりやすいですし、皆さんのご意見がきちんと反映されているのでよいものになっていると思っています。ありがとうございました。

先ほどの先生のお話でこうしたご意見を現役の中学校の校長先生からいただけるっていうのはすごく嬉しいです。まさにそういうことが今、PTAで課題になっているのです。どこの市町でもPTAを辞めましょうとか抜けましょうとか、自分のところだけじゃなくって、市や町の連合会から抜けましょう。自分の学校のPTAだけやってればいいでしょう。子どものためなら、それでいいよねというお考えの方がやっぱり増えています。

県のPTA連絡協議会となると、なおさらそういう広域の団体に所属する意味とはなんだろう。そんな中で私たちは団体として取り組むべきこともあるのですけれども、繋がることの大事さということを受けて、PTAとか親とか子育てとか地域とか、そういうこと語っていけないのかと思っています。

それをどう伝えるのがすごく難しく、それを社会教育が大事ということと本当にリンクしていると思います。

自治会離れとか、地域離れや子ども会を抜けるとか、本当に自分の生活だけがよければいいというお考えがすごく増えていて、それはすごく心配になります。それではいけないということを感じてもらうのかということが、私たちの課題であるのかなと思います。

PTAでも、何のために入っているのか、それから親が集うごとの意義とか意味ということ伝えても、やっぱり響かない人には響かないです。それでも役を減らすことよりも、一緒にやることの楽しさとか、効果とかいう話の方がみんな聞いて、比較的乗り気になります。でも本当は損得じゃないですけど。

今後、どういうふうに県のPTAとしてこの流れをせき止めていこうかなというところでは、今、PTAの意義とか、それから任意加入問題をどう乗り越えていくのかってことを考えていて、いくつか先行した良い事例もあるので、そういう事例とPTAに関する考え方とかをまとめて皆さんにパッケージでお伝えできるように準備をしています。

それは田舎の方でPTAに99%入るのが当たり前というふうに思われているような地域から都市化して全国からいろんな方が来られている地域までとなると、同じものでは、伝わらないんですね。ですから、それぞれの小学校や中学校単位でのその実情に合わせて話ができるように、出張の研修会をしようというふうに準備をしているところです。

PTAは組織的な課題は確かにあるんですけども、その大事さみたいところは、厳然としてあると思うので、それをどういうふうに落としどころを探っていくか、存在するための落としどころをやっぱり学校と一緒に保護者が探っていくかといけないうことかなというふうに思います。

【議長】

すごくいい話でしたので、多分これからいろんな方がそれぞれの立場で共通の思いであることが多かったのではないかと思います。

本当に今、話された小手先ではなくて、その意義をもっと見直すことについて、それぞれの団体を抱えておられる方は同じ思いを持っておられると思いますが、ご意見ありませんか。

【吉田委員】

今、話題になっていた部分の(3)の学びを通じた地域づくりの三つ目の丸の「社会的孤立を防ぐ世代ごとの繋がりを作り」っていう所、二つ目のところにPTAがあるかと思うのですが、そこに並んでいるこの青年団・PTA・自治会など、それぞれの世代ごとという文章を見て、この三つは明らかに弱体化していると思います。今の私の認識はそうですし、先ほどお話された課題というものを、PTAが抱えている課題として、ここに盛り込めないかなっていうことを感じました。

現実この三つによって確かに世代が繋がっていて、いろいろ選りながら成長していて、社会教育委員のメンバーの中にも青年団やPTAは入っていますよね。私も含めて、熱心な人たちがこうして議論しているわけです。

そうではない方にどう届けるかということが、おそらく今もずっと課題になっているので、弱体化している現状に対して、何を社会教育としてやっていくかという危機感的なものももうちょっと感じられないといけないのではないかと今、改めて感じました。

私は、前回、発信のことを言ったと思うのですが、今回、盛り込んでいただいていることも関連する事例として、提言の中に具体的にじゃあこうしようっていうのが入ってくるといいと思うんですけども、その前提として、危機的な感じが伝わるような何かが必要じゃないかなということを感じました。

大事ということをどう伝えるのかというお話があり、そこが課題とは思いますが、見えてない人に何をどう見せるかっていうのは、大きな課題だし、富永さんがお話された自己決定ということにも関連するというふうにも感じています。

PTAをやるべきものとして、やはり与えられてきていましたし、今、私もまだ中学校のPTAをやっておりますけれども、自分がPTAはあったほうがいいのかと思えるようにしていくのはどうしたらいいのかっていう視点は、とても大事だと思うので、そういうことに繋がるようなものになっていけばいいと感じました。

【議長】

そのとらえ方とても大事なことで、それをどういうふうにして伝えていくかというのは、この会議でも何度も出てきたところです。これは昔からの課題ですね。社会教育で伝えたい人になかなか伝わらないっていうか、皆さんのお手元に届いている団体からの冊子なんか一番わかりやすいと思うんですが、本当に見て欲しい人には届いていないような気がします。その他よろしいですか。

【金井委員】

それに関連するっていうか、去年の12月に大学で学園祭があったのですが、うちのゼミでは近江の食材を使って学園祭でチュロスを作ったのですね。そのコストを考えようっていう時に、社会資本というか社会的な関係を生み出すということを基盤の目的にしよう、売り上げとかではなくて、学生が材料を無農薬など環境型のいろんな農家を回って直接話を伺って無農薬の意味であるとか、産業コストということを知ったりして非常に勉強になったんですね。そしてそういう素材集めてきて作るとやっぱりおいしいです。

その時に先ほど自己決定と言われたことに関連するのですが、本学の学生たちは食マネジメント学部として、そのゼミで自分たちがどう思うか話し合った時に、一度地域に行こうよということになって、レンタカー借りて地元を周り、ケーキ屋さんの協力もあって、どうやったら美味しいパンになるのかっていうのを教えてもらっていったのです。

そして、それをゼミのSNSで発信したのです。そうすると、一気に学部全体とか、いろんなところに広まって行って、500とか600ですけど、やはり今、SNSとか発信していくときに、もちろんペーパーであるとか、公共のいろんなWEBも大事ですけど、個人発信ってやっぱりすごい見るとですね。

なぜかっていうと、演劇的というと自己表現ですね。自分のスタイルで自己表現する。公共的な枠組みの中でやると、どうしても面白くないですね。

枠組みとか決まっているし、そうではなくてインスタグラムが今は一番大きいかもしれませんが、そうしたSNSで発信すると若い人とか、一見、私化している人、私の領域にいる人たちにも繋がると公共的なことには関心があるんですね。ですから業務媒体としてSNSということをもっと書かれたらいいのではないかと思います。

それからどうしても社会教育なので、学びということが必要ですけど、今回やってよかったという学生は、もう授業でインプットばかりでたくさんだというわけです。とにかく現場行って行動する、体験するということを提案すると、本当に能動的に動いて、最後に学生たちはこれまでオンラインの授業であまり繋がってなかったのが、クリスマスツリーを作って、七夕みたいに短冊をつけて、この間どういう思いだったのかということを書いてもらうようにしたんです。

すると多くの学生が短冊を書いて貼っていくのです。何か違う繋がり方とか媒体とかがあるのではないかなというふうに思います。私ももう六十過ぎてなかなかこういう情報や現代的なSNSは苦手なのですが、そこをもっと開拓すれば可能性があると思いました。

【議長】

学生さんが能動的に取り組まれたっていう話ですが、金井先生がニコニコしてお話していただいた様子から、学生の方といつも一緒に先生も楽しみながら活動をされていることが伝わってきました。やっぱり楽しむっていうことが大事ですね。吉田さんがおっしゃった発信の方でも、学びや活動の楽しさをどんなふうに伝えていくかっていうのが、キーワードじゃないかなって改めて今のお話を聞いて感じました。

【宮本委員】

私もやっぱり発信のところが一番気になっています。先ほどもお話あるように、やっぱりSNSやインスタグラムであるとかそういったものをもっともっと上手に使っていけないかなということも思っていて、滋賀県庁の中でも、事業ごとというか、いくつかインスタグラムのアカウントがあると思うんですけど結構見ます。最近、面白い内容をアップされているので、こうしたインスタグラムを使うと、高校生からお母さん世代まで、40 から 50 代ぐらいも結構みんなが見ておられるので、幅広い人に関心をもって見てもらえるのではないのでしょうか。

その発信の中身も、例えばこんなことしますよとか、こんなことしましたっていうような開催のお知らせや開催報告だけではなく、何のためにこれをしていて、先ほどのPTAの意義と同じように、なぜ必要なのかとか、あることによってどんなことが自分とどう関わっているのかとか、物語というか、そういうのを発信していくことが、すごく大事だなと思っています。

しかも、なかなか大変なのですが、それを継続的に作っていき、月に一回まとめて投稿するよりは、日々どんどん更新していく。

特に今、社会教育のいろんな話を聞いていると、いろんな団体に関わっておられるので、そういう団体も多分それぞれでアカウントを作っていると思うのです。そういうものを、一つのアカウントでシェアしたりして、上手に拡散もしていけると思うので、ぜひそれを来年度からどんどんしていけたら楽しいのじゃないかなと思います。

【藤村委員】

今、PTAの話をされていたのでその関連でコメントさせていただきます。今の時代は結構難しい時代で、これまで当たり前に来てきたことが、もう当たり前じゃなくなっている中で、なぜ保護者が学校に関わる方がいいことなのかっていうこと自体の前提のとらえ直しが必要なのかなと思います。

何か関わる方がいいということだという前提に進めていくともう行き詰まっていくと思うので、本当に必要性を感じないと多分、全然主体的にみんなが関わってこれられない状況であるように感じています。このことは、簡単に解決できる問題じゃないということ聞きながら考えていました。

例えば学校の開き方でも、お母さんたちとか保護者の方たちに、何かちょっとしたことを手伝ってもらうような関わり方ではなくて、これまでは、関わらせてこなかった、関わらせてもらえなかった部分、ちょっと厳しい言葉で言うところと閉じてきた部分を本当は開く必要があったりとか、ここの部分は教育者たちがやっていく部分だから、保護者たちはこっこの周辺部分手伝ってくださいっていうような関わり方ではなくって、本当に教育に関わっていくっていう事の本質自体を、考え直さないといけないのじゃないかなっていうのを聞きながら考えていました。

ただ、じゃあどういう解決策があり、今すぐどういうふうに対応していけばいいかっていうことを言われると、その辺は、ガラッと変えるのは難しいし、認識も変えないといけないので、どう進めていったらいいんだろうなっていうのを悶々と考えていたので、いいコメントみたいなものは出ませんが、そんなことを考えながら聞いていました。

【議長】

前提のとらえ直しというのは、すべて本当にその通りだと思いますね。

今、学校の閉じていたところをという言葉がありましたが、その辺り藤谷先生どうですか。

【藤谷委員】

PTAの話はずっと聞かせていただいてですね、それぞれの委員さんのおっしゃる、まさに同じようなことを思います。やはり思い切った変革というものをしていかなきゃいけないんじゃないか。ネーミングも含めて、1回リセットしてしまって、本当に必要なものは何かっていうところに立ち返って、今までの活動にとらわれなくて、こんなものができたらいいのになっていう、そういうところの発想からスタートしていかなければならない、リスタートしていかなければならない、そんな時代じゃないかと感じています。

やっぱり変えてはいけない部分と、変えなければいけない部分っていうのもしっかり整理し直す。何年も前に業務仕分けとかありましたけども、思い切った業務仕分けを各種団体がしていけないとこれからの時代、なかなか維持存続という考え方だけでは続いていけないというふうに思います。

ただ、繋がりという言葉は、私はいつの時代にも、生きている言葉だと思うので、そういった観点で簡単に言いますと、やっぱり業務仕分け、こんなことしていききたい、あんなことしていききたい、そういう観点でやっていかないといけないのではないのでしょうか。

【議長】

繋がり、業務仕分け、変えていくところと、変えてはいけないことは伝統とかですね。それでは、繋がりということで、加藤さん社会福祉という面ではいかがでしょうか。よろしくお願いします。

【加藤委員】

本当に貴重なご意見が出ていて、思ったことは、最初のところで当事者意識という話がまずあったかと思いますが、PTAや関わる保護者の人たちが、当事者意識をどれだけ持っているのかっていうことです。要するに我が事として、いかに考えられているのかっていうところで、学校づくりとか地域づくりみたいところを我が事としてとらえる、そのためにはどうしたらいいのだろうなっていうことを考えていました。

例えば、PTAは、あったほうが良いというような気づきを、それぞれの保護者の人たちが得られるためには、やはり話し合うことしかないのかなというふうにも思います。

学校やPTA、その他の関係者も含めていろんな人がPTA活動を通じて繋がることが大切だよとか、こんな活動するといいとか、すごく地域が変わってきたとか話し合っ、そういう中で、自己決定という話もありましたけども、自己決定する機会を作っていくことがすごく大事だと思います。そして他人の意見をやっぱり尊重すること、そうすると自分の意見も尊重されるという関係が非常に大事だと思います。そういう中で自分事として考えていけるようになるのかなと、皆さんのお話を聞きながら考えていました。

【議長】

ありがとうございました。自分の思いで少しでもコメントさせてもらおうと、自己決定と出てきましたけど、ものすごく大事だと思います。Society5.0 時代になったときに、子どもがどうしたらいいのか、その時になってから自己決定というのでは遅くて、0 歳からもっと言えば、お腹の中にいる時から子どもたちは自己決定ができるんです。

だから、小さな頃から自己決定を積み重ねていく。今の言葉でいうと、幼小連携とか、小中連携それから高校大学と、その中で一貫してこれからの子どもたちが出会うであろう震災に対する危機管理や自分の命を守ることに同時に、自己決定の精度を上げていく取り組みっていうのを学校教育と社会教育でやっていかななくちゃいけないんじゃないかなと、今、乳幼児教育に関わっている中で思っています。

それと、先ほど、藤村先生おっしゃった前提のとらえ直しについて、僕的にはものすごくキーワードだと思っています。そのとらえ直しをするときに、金井先生がにこやかにおっしゃった楽しむ心というものが大切で、その辺が何かすごく大切なキーワードで発信していけないかなと思わせていただきました。

それでは、前半の時間が来ましたので、10 分間の休憩を取りたいと思います。10 分後にお戻りください。

【議長】

それでは時間になりましたので、皆さんお戻りいただいてよろしいでしょうか。

再開したいと思います。まず提言（案）の後半部分についてご説明いただきます。

【事務局】

○提言（案）後半部分の説明（※資料3）

【議長】

今ほどの説明について、ご質問・ご意見ありましたら、挙手をお願いします。

【金井委員】

提言 2 のところですけど、確かに課題解決ということは本当に必要ですけど、もうちょっと未来を拓くとか、ビジョンを共有するとか、未来へ向けて明るい言葉を出した方が良く感じています。課題というとほんと課題はいっぱいあり、しかも部分的な課題もいっぱいあります。

住民の皆さんやいろんな立場の方が、連携して未来を共有するというのはすごく大事なんじゃないかなと思います。例えば、課題を解決し未来を拓く社会教育みたいな方がいような気がします。

課題というと厳然にあるすごい課題が結構あるとしても、未来を共有するということであれば、結構連携し、力が出るのではないかという思いがします。今、企業でもですね、well being という幸せとか楽しさを共有して会社で働こうっていう時代にもなっているんで、もう少し明るい未来に向けた表現を入れると良い、そんな感じがしました。

【宮本委員】

大したことではないですけど、私もそのワクワクするような未来に向けての中身は本当にこのままで良いと思うので、書き方、テキストの問題だと思うのでそこをちょっともう少し考えたいなというところでは。

それと、アイコンを全ての事例につけてくださったすごくわかりやすく、例えば、先ほどのお話みたいにインス

タグラムをする時も、継続してずっとアイコンをつけていけるとすごくわかりやすいなというふうに思いました。

それとこのPDFを見ていると、アイコンの文字が見えにくいかと思いました。「ひろげる」「学ぶ」という白い文字のところをしっかりとわかるように、まだ修正できるようなら、まず視覚から見やすく入るとすごく良いかなと思いました。この3色はすごく見やすくわかりやすいので、このままでいいかなというふうに思いました。

【吉田委員】

私もアイコンのところ宮本さんが言ってくださって同じように思いました。あと学ぶ所のアイコンで、一斉授業みたいなイラストではなくて、今、対話的で主体的な学びと言われてるので、何か輪になって話しているなど、そういうイラストを望みます。

他のいろんな委員会に出させていただいているので、この主体的で対話的な学びというのが、もう教育の中ではだいぶ定着しているのですが、実はこれは一般的ではないし、一人の保護者として見たときには全然知らない話であるのです。

そのことを含めて、家庭で親子が対話で主体的な話ができるような家庭にしていくみたいなことも、とても大事なことであると思うので、そういうことも社会教育に大きく繋がっていくと思うので、その辺も意図しながら、これからは変わっていくんだよってということが伝えられるといいなというふうに感じます。内容はもう本当にこれでいいと思うので、その辺の何か工夫ができればいいなと思います。

【金井委員】

最初から学びとくのが、やっぱり少ししんどいかなと思います。もう少しいいトーンから入りたいですね。

昨年、近畿地区社会教育研究大会で長浜市で演劇活動をされている方の発表があったのですが、そこで子どもたちが自己表現できるということがすごく大事と話されていて、演劇の場では、最初は恐る恐るだけどだんだん演技していく楽しみを覚えていって、6年生になるとかなりいろんなことができるようになる。

傾聴がもちろん大切なんですけど、もう一つ自己表現するということが子どもも大人も大事で、学ぶというと誰かに教えられるみたいなイメージがあって、主体的な学びという言い方もありますが、まだ堅いようにも思いますし、何か学ぶに関わっていい言葉をさがしませんか。

【議長】

他どうですか。無いようでしたら、今のことを少し表現的な部分で可能は範囲で修正をお願いします。それでは次のところで、今後のスケジュールなどの説明をお願いします。

【事務局】

○提言完成へ向けての作業、スケジュールについて(※資料4・5)

【議長】

ご質問等がなければ、本日、最後の会議となりますので、一人一言ずつ会議を振り返ってでもよいので発言をお願いしたいと思います。今日の出席名簿の五十音順の吉田さんから最後加藤さんで終わるという順番で、最後に私が総括をして終わりということで、ご準備の方よろしくお願ひしたいなと思います。それでは、よろしくお願ひいたします。

【吉田委員】

やっぱりここでの経験をさせていただいて、一番、自分の中でよかったのは、皆さんとお会いできたこと、あととはできる限り視察とかいう機会には行かせていただいて、それが自分にとってやっぱりすごく実りのある学びでした。そして楽しかったなっていう思いがあります。

それはなぜ楽しかったのかっていうことを考えたら、自分の枠っていうものに気がつくというか、自分が知らないことを知ることによって自分が持ってた枠にも気が付くし、それを外すことができるというか、自分は、こういうふうには思っていたけど、こういう世界があるのだなあととか、こういう取り組みがあるんだ“へーって“いう“へーって“いうのが、何よりの気づきだったり学びだったりするのかなっていうことを身をもって体験させていただきました。

それこそが社会教育の良さだろうなっていうことを思っています。ですから、今後もできるだけ、どれだけ目から鱗を落とすようなことを発信していけたり、そういうことが表に出てくるかどうかが、社会教育が変わっていくきっかけになったり、身近になっていくことかと思えます。私自身もまた、引き続き竜王の場でできることをやっていきたいと思えます。ありがとうございました。

【宮本委員】

ありがとうございました。私も吉田さん一緒に、いろんな素敵な方に出会えてうれしかったというのが本当に一番の感想です。長浜の方にも来ていただいて、私たちの店舗も見ていただきましたし、余呉の小学校とかも見ていただけたことがすごくうれしかったです。

なかなかいろんなところに全部参加するのは難しかったですけど、事務局が本当に丁寧にまとめてくださって、もう行った気になるぐらいの動画や資料を作ってくださいって、なかなかここまで丁寧にやってくださることないなと思いつつ感動しておりました。

まだまだこの滋賀県には、すごく素敵な活動とか取り組みをされている学校や団体がたくさんあると思うので、それをもっともっと地域の人みんなが知ってくれて、そこで何かの気づきを得てもらって、例えばそこで今日学んだことが、自分の身の周りとか地域だったらどうだろうっていうような、すべてがご自分事に繋がるような、何かそういう発信がしていけるといいなと思えます。

せっかくなので時間をかけて作ったこの提言なので、これが形だけに終わらず、どんどんどんどん運用されていくと良いなというふうに思いました。2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

【藤村委員】

2年間ありがとうございました。なかなかいろんな状況の変化の中で、社会教育のこの活動に深く関わっていくっていうことが難しかったですけど、普段、学生と向かい合ったり、自分の研究テーマがどうしても学校教育を中心に考えることが多いので、何かその枠から出て、社会教育との繋がりで教育全体のことをどうやって考えていたらいいか、というようなことを考える良いきっかけになったと思っています。こうした視点をどうやって学生たちが持てるよになるには、どうしたらいいのかということはずっと考えていました。

特に教育学部に入ってくる学生たちは教育というイメージイコール学校教育というイメージを持ってくるので、これから先ほどもコメントさせていただいたように、学校の枠もどんどん変わっていく中で、いかにこれまで持ってきたイメージを崩していくかっていうことを、社会教育との関係性の中で学校教育をとらえ直すっていうことをして欲しいなとずっと思っており、そういうことを改めて強く感じるきっかけになりました。2年間ありがとうございました。

【藤谷委員】

私も結局、現地視察に1度も行けなくて、長浜もすごく楽しみにしていたのですが大雪でいけなくて、日野町には行ける予定でしたが、中止になってしまって会議以外は、参加できませんでした。

でも、こうやってお話をいろんな方からいろんな角度から聞かせていただいて、非常に自分自身なるほどと勉強になりましたし、先ほど、藤村先生が話されましたけれども、やはり学校と社会教育というものが、まだまだつなげていける可能性がいっぱいあるというふうに思っています。

皆さん方は、多賀町のあけぼの象が国の天然記念物に指定されたことをご存知ですか。今まさに多賀町がすごいんだぞという機運があるので、それをきっかけとして、もっともっと自分たちの住んでいる地域をいっぱい調べていく中で、いいところがいっぱい見つけて、次の自分たちの未来に何かこう誇れるような地域づくりがしていける、そんな子どもたちを育てていきたいなというふうなことを思っています。また多賀町へもおこしく下さい。ありがとうございました。

【橋委員】

2年前にこの立場をいただいて、ここで皆さんと色々な話をするときには滋賀県PTAというのを背負ってきていたはずですけど、いつの間にか自分の地元の活動の話が結構メインになっていて、自分の中でこれはいけないなど思っていた矢先、今日のお話でいきなりPTAの話に戻していただいたところでありました。

先ほど話されていた、学ぶとか繋がるということが前向きじゃない人、そういう可能性もあるのだなと思って聞いていました。私はこういうところに参加して色々な方の話を聞いて自分の知見が広がっていくことがすごく楽しいし、学ぶことは自分を開いていくことかなというふうに思っています。

でも、もう一方でその学んでいくことが、そうそう前向きな風にとらえてない人もやっぱりいて、学ぶことは楽しいとか、広がるとかっていうことそのものを拒絶されるってということもやっぱりあって、そういうことに出会う度に打ちのめされたりするのですけど、こういう所で前向きな皆さんに出会えるってというのが、自分を前に押し進める力になるというふうに思っております。

社会教育ってなんだろうと思いつつながら、ここに来ましたけれども、これだっというようにことをうまく言えないですけど、自分がやってきたことが全部ここに繋がっているというのはすごく感じました。

これは一定期間やったら終わりっていうことではなくって、多分、この先もずっと一生やり続ける、自分とともにあるものかなというふうにも感じております。

2年間短い間でしたけれども、これが終わってからも同じようなことを延々やり続けるのかなというふうに思いますので、またどこかでお会いできたらなと思います。ありがとうございました。

【富永委員】

2年間、社会教育委員として、本当にいい勉強させていただきました。またいい方々と本当に繋がりができてとてもよかったなと思いました。

いろいろと社会教育の方で関わって活動しているのですが、本当に受け身の人が多いということに何故だろうと思って、それが社会全体の課題だと考えていたところで委員を引き受けました。ですからずっとそのことを考えながら、どうしたら人にアンテナが立つのかとか、主体的になるにはどうすればいいのかということのを思いながら参加させていただいていました。

やっぱり振り返ると学校教育だというのをつくづく思ひまして、今、自分は中学校にすることが多いのですが、ほんとに受け身の態度を身につけるために学校に来ているのかと思えるようなところがあって、だからこそ、学校からやっぱり変わっていった子どもの純粋な感性やアンテナが立つという、力を引き出し続けながら、大人になっていくということが大事かなってことを思っています。ありがとうございました。

【金井委員】

本当に今回は、皆さん自分のプロジェクトであるマイ(my)プロジェクト、あるいは仲間の方々やっているアワー(our)プロジェクトという、そういう実践をもっておられる委員が多かったと思うので、そこから本当に元気をもらうというか、こういう取り組みもあるんだと、こういう分野があるんだっていう発見が非常に多くありました。そして、私も自由に発言させてもらいました。自由に発言できるような場、運営を事務局や議長が作っていただいたので、非常に居心地のいい場所だったと思います。ありがとうございました。

大学でも学生になるだけプロジェクトをやって、自分たちで行動し実践して、また学びというふうにつなげるような授業に変えていっているところです。先にいろんな理論学んでから現場へ行くと、もうインプットはたくさんだみたいな状態になってしまい、むしろ先に現場に行ってから、これはどうなのかと後で学びがくる方がいいぐらいなかというふうに今、思うようになりました。

明日も、私の大学のゼミの生徒がキッチンカーで滋賀県庁前に近江産の野菜とか持ってきて出店します。ゼミの14人あるいは2学年の28人がいろんなことをやり出しています。自分自分が教員として少し立場を変えていくと、学生たちが自分達で変わり始めるんだなあということを、この歳になってかなり感じて今日この頃です。

皆さんも何かをやられている、マイ(my)プロジェクト、アワー(our)プロジェクトを持っておられる方々ばかりですばらしい委員会だと思います。どうもありがとうございました。

【加藤委員】

ありがとうございました。2年間あつという間でした。最初の会議は集まってできた会議でその後は、ほとんどがオンラインの会議でした。私はオンラインの会議がどうしても苦手で、毎回胃が痛くなりましたが、そんな会議でしたけれども、本当に福祉と社会教育がすごく密接な関係があるんだなっていうのが、私の学びとしてありました。

福祉とは、よく普段の暮らしの幸せというふうに頭文字をとって言いますが、社会教育においても、やはり普段の暮らしの幸せについて考えるものなんだろうなというふうなことを考えていました。

あと、以前、地域福祉部にいた頃に、やはり地域福祉活動をどう地域で進めるかということを考える上で高齢化進んできて、地域の方々も、疲弊をしている中でどう活動に取り組んでもらえるのだろうかというのを考えてきました。

無理なくとか、少しでも取り組んでもらえることをやってみようということで、いろいろ相談しながら進めてきましたけれども、そういう中で、県社協の方では、子ども食堂の活動を続けていますけど、現在、県内に150ヶ所という大きな広がりになってきています。なぜこんなに広がったと考えたときに、その取り組みやすさもあると思いますし、共感を得やすかったということもあるかとは思いますが、何か新しさというところもあったのかなというふうに感じます。新しく作っていくみたいなのも大事じゃないか、変えていくっていうことも大事じゃないかという話もありました。

今回の学びや社会教育というところを福祉につけかえたり、つけ足していけるような、そんな取り組みを今後、県社協としても、何か取り組んでいけたら、より一層面白くなるんじゃないかと考えます。それこそ課題解決であるとか、

地域の新しい価値を作っていける取り組みになるのではないかというふうに思いました。2 年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【議長】

はい、皆さんありがとうございました。私も最後にお話しさせていただきます。

自己決定が本当に大事だっていうのと、10 ページによりよい学校教育がよりよい社会をつくると書いてあるんです。そうした理念のもと教育改革が推し進められている訳ですが、学校教育って、社会に開かれた教育課程と言われていますが、まだまだそうならない現状や今、人生 100 年になって義務教育の 9 年は 100 分の 9 なのに、社会教育とか家庭教育が注視されないのはどうしてなのでしょう。

この間、園で講師をお願いした先生に、コロナで大変な状況になってきて、子どもや保育が大切にされていない現実などを伝えると、次のような返事が返ってきました。

「ご苦勞が多いことと思います。どうぞ、目の前のお子さんと職員の皆様の心と体の健康をお祈りします。日本はすでに最先端の国ではなくなりました。だからこそ、子どもを真ん中に据え、未来の社会へと新たな舵を切ることが、日本の新たな再生に繋がるのだと思っています。皆様の保育の仕事こそこれからの日本の中核であり、希望です。」と言ってくださり、本当にありがたい言葉だと感謝していました。

うちの園でも 170 名いますけれども、日々の日常を大切にして行事はどんどん減らしてきました。それは何故かと申しますと、自己決定をする環境にするため、毎日自分で考え自分で決めて行動できるような環境づくりをするためです。極端に言えば、それを 365 日積み重ねることによって、先ほど皆さんがおっしゃっていたように大人になって、あるいは、青春の曲がり方で、自分で考えて決めなくちゃいけない場面でしっかり自己決定し行動ができる人になっていくと思うんです。その土台をつくるのが乳幼児教育なんだと思います。今こそ人材育成、人づくりの土台を大切にしていきたいと感じています。

座長というお役目をいただき、皆さんと 2 年間ありがとうございました。

4 閉会

【閉会の挨拶】